

都市再生整備計画(第^{だい}2回^{かい}変更^{へんこう})

^{うおづちゅうおう}
魚津中央地区

^{とやま} 富山県 ^{うおづし} 魚津市

平成20年2月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	富山県	市町村名	うおつし 魚津市	地区名	うおつちゅうおうちく 魚津中央地区	面積	144 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標

賑わいとやすらぎのあるまちづくり

- ・回遊性があり、親しみを感じ歩くことが楽しくなるような歩行者動線のネットワーク化
- ・いつでも安全に快適に歩くことができ、居住者などにとっても愛着のもてる歩行空間の形成
- ・中心商業地の情報発信の場として利用できるイベント空間の形成

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

魚津中央地区は、昭和31年9月の魚津大火により消失し、その後の火災復興土地区画整理事業により面的整備が行われた旧市街地と、これに引き続き面的整備が進められた魚津駅前地区、加積地区の一部を包括する地域により大部分が構成されている。当地区は、魚津市の中心市街地として、商業・宿泊施設などの集積した商業地を形成し、隣接する大規模工場や旧魚津水族館、魚津埋没林博物館などの観光地と共に都市の活力を生み出してきた。しかし、近年のモータリゼーションの急速な進展による都市構造やライフスタイルの変化、大規模工場の業務縮小や郊外型大型店の進出、また人々が郊外に居住し活動の場が郊外に移ったことにより、魚津市の文化を育んできた中心市街地は衰退の傾向である。

このため魚津市では、中心市街地の活性化に向け、地区内に立地する商業・文化・行政など、各種施設へのアクセス性の向上、文化・特性を生かした親しみの持てる商業空間の形成を目指し、平成11年3月に「魚津市中心市街地活性化基本計画」の策定を行い、これに基づき各種事業により中心市街地の整備を行っている。また、「魚津駅前地区景観整備計画検討委員会」、「鴨川周辺整備懇談会」や「これからの鴨川の川づくり懇談会」の開催や、魚津駅前地区住民アンケート調査の実施により、地域の課題等の意見を集約し、これらを事業実施計画に反映している。また、啓発活動としては、市商工会議所が中心となり「魚津市元気な街づくり事業実行委員会」を設立し、歩行空間整備地域の愛称募集キャンペーン等が予定されている。

最近の事業実施状況としては、平成14年3月に魚津中央地区まちづくり事業計画の同意を得て、まちづくり総合支援事業により地域生活基盤施設として鴨川沿線の回遊性を確保するための橋梁の整備や、高質空間形成施設での道路景観整備を進めてきたところであるが、歩行者動線のネットワーク化や安全で快適な歩行者空間を形成する街路や回遊の核であるイベント空間の整備が、地元住民や商店街から強く求められている。

課題

人口減少・高齢化の時代において、市民生活の安定化、都市経営のための経済活力の確保のためには中心市街地の活性化が都市整備上の最大かつ喫緊の課題である。

- ・郊外部から中心市街地へ向う人々の移動手段が不足し、中心市街地が衰退しているため、新たな交通手段の確保が必要である。また、新たな賑わい創出の核となる観光スポットの整備が求められている。
- ・衰退した飲食店街、商店街を活性化するため、観光スポットからの来街者にもアピール出来る魅力ある市街地づくりが必要である。
- ・道路環境に対する市民ニーズが多様化・高度化し、地区内幹線道路の整備を進めてきたところであるが、これらを補完する細街路が未整備であり、居住者などにとっても愛着のもてる歩行空間の形成が必要である。
- ・郊外大型店の進出などによる中心商店街の衰退、人口の郊外への拡散化、高齢化、核家族化といった社会背景から、市街地の地域コミュニティが少なくなりつつあるなかで、世代を問わず人が交流できる中心商業地の情報発信の場が必要である。

将来ビジョン(中長期)

地域の特色である「蜃気楼」や「たてもん祭り」などを活かした商業の活性化と観光の役割も果たす中心市街地

地域に根ざした商業地として魚津市の特徴である自然の「水」や「緑」、特産品の「魚」や「りんご」、魚津市ならではの「蜃気楼」や「たてもん祭り」など、地域の特色を個性として活かし、魚津市を訪れた人にも地域住民にとっても利用しやすいまちづくりを進めて行く。そうしたまちづくりを進めていくことにより中心市街地には、いろいろな人が集まって“ふれあい”が生まれ、そして“にぎわい”や新しい“きらめき”のある商業空間を形成する。

- ・中心市街地活性化基本計画では、生活に密着した会話と笑い声が聞こえる人にやさしい商業空間を整備する地区として、位置づけられている。
- ・魚津市総合計画では、いきいきとした都市活動の場となる市街地の整備を図るべき地区と位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値	目標値	目標年度
				基準年度			
郊外部から中心市街地への来街者数の増加	人／年	コミュニティタクシーを利用した中心市街地への来街者数	新たな交通機関を利用して活性化した中心市街地を訪れる市民		7,812	10,936	H20
観光地への来客数の増加	人／年	観光地(地方港湾魚津港)の利用者数	中心市街地の新たな賑わいの場となる観光施設を訪れる来客者		67,862	81,434	H20
中心市街地の施設利用者数の増加	人／年	図書館の利用者数	中心市街地活性化のバロメーターの一つである施設利用者数		39,733	47,679	H20
イベント開催数の増加	回／年	中心市街地内における商店街やボランティア団体によるイベント等の開催数	賑わい創出の舞台となる歩行空間やイベント空間を活用したイベント等の開催		16	24	H20

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>交通手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街来者の足を確保するため、郊外部から中心市街地へ向かう5ルートのコミュニティタクシーを運行・整備し輸送力の拡大を図る。 ・中心市街地内の移動手段としてコミュニティバスの整備・運行を行う。 	<p>コミュニティタクシー運行事業(提案事業、市)、バス整備事業(関連事業、市)、コミュニティバス運行事業(関連事業、市)、コミュニティタクシー整備事業(提案事業、市)</p>
<p>新たな賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魚のまち魚津」を演出の基盤となる港湾施設の拡充や整備を行う。 ・中心市街地の新たな賑わい創出の場づくりのため、物販施設建設用地を市で購入し、これを民間企業のに貸与し、魚津らしい新しい観光スポットとしてのきっかけづくりにする。 ・埋没林博物館との相乗効果も狙い、港湾施設からでも出入出来るように、ゲートを開設する。 ・魚津市は曇気楼の見える日本で唯一の場所であり、気象観測システムを導入することで曇気楼発生の確率の高い情報が提供でき、観光の目玉になり賑わいを創出する。 	<p>物販施設整備事業(提案事業、市)、マリンゲート開設事業(提案事業、市)、気象観測システム整備事業(提案事業、市)、魚津シーサイドプラザ建設事業(関連事業、株魚津シーサイドプラザ)、港湾改修事業(地方)(関連事業、県)、港湾環境整備事業(関連事業、県)</p>
<p>歩行空間の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部を代表する飲食店街の道路を、整備改善することにより賑わいの創出を図る。 ・鴨川沿線は水辺空間として古くから地元で親しまれ親水護岸が整備されているため、回遊性を持たせた歩行空間を整備をする。 ・文化町中央線は商店街を結ぶ歩行空間のネットワーク化を行う。 	<p>高質空間形成施設(基幹事業)、カノコリロード設置事業(提案事業、市)、特定交通安全施設等整備事業(関連事業、県、市)、県単独道路改良(新BIG)事業(関連事業、県)、統合二級河川整備事業(関連事業、県)、地方特定河川等環境整備事業(関連事業、県)</p>
<p>イベント空間の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街来者、居住者の憩いの場でもあり、イベント空間を備えた図書館の建設を行う。 ・公園を近隣の商店街や地域住民の情報発信の場となるようイベント空間を創出する。 	<p>電鉄魚津駅前公園(基幹事業)、中心商店街活性化事業(提案事業、(振)中央通り名店街外)、中心市街地活性化広場公園整備事業(関連事業、市)、魚津市立図書館建設事業(関連事業、市)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのための交通規制 <ul style="list-style-type: none"> JR魚津駅前のメインストリートである飲食店街の賑わいを継続するため、今後、交通規制をどのように進めるか魚津駅前地区景観整備計画検討委員会、魚津飲食業組合や地域住民等と協議しているところである。 ・継続的なまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> 魚津商工会議所U-ビジョン策定委員会と市関係職員による「夜なべ談議」の開催や、同青年部の地域委員会が中心となって「魚津の街づくり」をテーマに勉強会を重ねて魚津市の活性化を模索し始めるなど、まちづくりの機運の高まりが感じられる。 	

